

## エストニア タリンセミナー開催

JICC はエストニア FerminaEnergia の協力を得て 2022 年5月18日-19日の 2 日間のエストニア・タリン現地セミナーを開催した。

### 【経緯/目的】:

エストニアは、2050 年までの炭素排出量実質ゼロ(カーボンニュートラル)の実現という欧州連合(EU)の達成およびエネルギーセキュリティにおけるロシア依存からの脱却を目標として、原子力発電をひとつのオプションとして考えている。2021 年 4 月に政府各省庁間のメンバーで構成される原子力導入に関するワーキンググループ(NEWG)を発足し、小型モジュール炉(SMR)や先進炉を開発中の複数の外国企業とエストニアへの導入可能性を検討している。

そういった環境において、原子力先進国である日本の原子力発電での知見を紹介し、エストニアの方々の原子力発電への理解を高めるべく、エストニア/タリンで現地セミナーを開催した。

### 【結 果】:

- ① エストニア環境省 Meelis Munt 事務局長(エストニア NEWG の Chairman)、在エストニア日本大使館 松村特命全権大使による開催挨拶の後、エストニア/日本のエネルギー政策、福島第一事故の現状と知見、原子力安全、核セキュリティ、原子力発電の恩恵について講演を行い、また原子力発電のパブリックサポートについてパネルディスカッションをおこなった。
- ② エネルギーのロシア依存からの脱却およびロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー価格の高騰により原子力発電導入への関心は高まっており、約75名が参加するセミナーとなった。
- ③ エストニアにおける原子力発電への関心の高さおよび課題(使用済み燃料の処理、放射性廃棄物処理)があきらかとなった。→日本招聘において放射性廃棄物処理設備の見学を予定。



以上